

どこか面白い山、教えて下さい

三十年ほど前の話になる。岳人という月刊登山雑誌の編集の手伝いをしていた。ある時、編集部質問状が舞い込んだ。

「どこか面白い山、教えて下さい」である。誰もが、面白い山に登りたいと思っている。山岳雑誌やガイドブック、あるいは山仲間の情報から、面白い山を捜す。面白い山は、なかなか見つからない。それはそうだ。なぜって、「面白い山」という山は、ないのだから。勿論、山は地上に沢山ある。海の中にも、山はあるらしい。ぼく的に正しく言うと、地上に面白い山はない。しかし、ある所に面白い山はある。面白い山は、人の心の中にあるのだ。

「雨が降っても楽しい」とは、NHK教育テレビ番組「中高年のための登山学」に出演していた頃、発明？した言葉だ。雨が降ると、山は楽しくない。雨具を着ているから蒸し暑いし、足が上がらない。足下は滑るし、周囲は灰色でなにもみえない。楽しくなくて当然だが、「楽しくない」がお腹の中で膨らんでいくと、注意が散漫になってトラブルの原因になる。滑って転んだり、コースを見失って道迷いしたりする。

雨の中だって楽しく登っていれば、そんなことはない。それは、「気」の持ちよう一つだ。雨の山だって、気持ちいいなあ、と思いながら歩いていけば、心の中に楽しい気分が広がっていく。

旨いもんも同じ。腹が減っていれば、インスタントラーメンだって旨い。満腹だったりすると、一流レストランのサーロインステーキだって、美味しく食べることは出来ない。

しかし、腹っぺらしの奴がいて、何でも旨い旨いと実に旨そうに食べる。そうか、山の腹っぺらしになればいいんだ、なんて思った。大きな山も小さな山も、高い山も低い山も、雨空でも青空でも、いつでもどこでも山を楽しめる奴は、幸せもんだよなと思う。

『ジパング倶楽部』が、テーマ特集で低山ハイキングを取り上げてくれた。その取材で、長崎、徳島、長野、奈良の小さな山を巡り歩いたが、いずれの山も面白かった。

奈良では龍王山に登った。新幹線で京都、奈良線で奈良。桜井線に乗り換えて最寄り駅、柳本へ向かうのだが、車窓から眺める山や里のたたずまいが、なんともいえない、大和ならではの雰囲気醸し出している。龍王山の頂上は、大和の素晴らしい展望台。天香久山、耳成山、畝傍山も手に取るようだ。すっかり味をしめてその翌日は、山辺の道を歩いて、三輪山に登った。下って食べた三輪ソーメンが美味しかった。

5月29日は洞川温泉に泊まり、古参会員のお一人、花宮登美子さん、黒田記代さんと三人で、30日に稲村ヶ岳に登り、31日に五番関から吉野を歩いてきた。

稲村ヶ岳は、ブナがきれいな山だったし、五番関から吉野は、奥駆けの雰囲気を残す歩き易い古道であった。人間至るところ、面白い山あり、と言えそうだ。